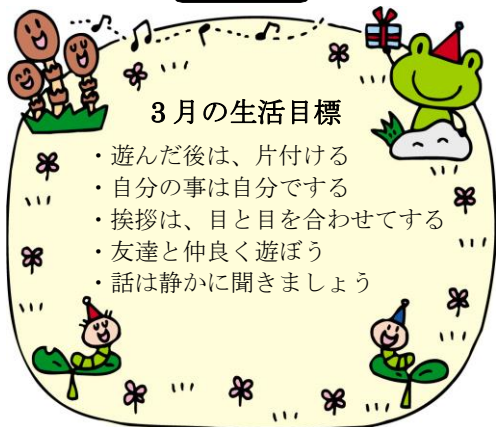


永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽら
 令和5年3月発行・第191号
 認定こども園西九州大学附属 三光保育園
 TEL:0952-31-6877



3月の生活目標

- ・遊んだ後は、片付ける
- ・自分の事は自分でする
- ・挨拶は、目と目を合わせてする
- ・友達と仲良く遊ぼう
- ・話は静かに聞きましょう

今年度の活動は終了！

コロナ禍3年目のぽぽらの活動が終了します。感染防止対策のために、様々な形で活動変更等を行いました。皆様のご協力で活動を続けていくことができました。

本当にありがとうございました。

さて、佐賀市では色々な行事やイベントが復活して来ています。佐賀城下ひな祭りや桜マラソン等々、何だかワクワクしますね。こども園の子ども達が、お雛様製作に真剣な表情で取り組んだり、ひな祭りの歌を練習している姿を見ると、日本の伝統行事を大切に繋ぐ使命に、改めて気づかされる今日この頃です。

令和5年度のさんこうぽぽらの活動は、好評だった講座の復活、新しい講座の追加と、これまでの沈滞化を活性化に代えて、子育て中のご家庭に喜んでいただける活動内容を計画中です。育児休業法の改正やこども基本法の施行、こども家庭庁の設置等々、子育てしやすい地域づくり、子育て環境が改善されるように、その目的に則って職員一同努めていきたいと思えます。

皆様、楽しみにしててください。

(三光保育園園長)

2.3歳の日 ふりかけづくりと節分



赤ちゃんの日 ベビーダンス



1歳の日 音楽遊び



「シニアサロンぽぽら」

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方にお越し頂き楽しいひと時を過ごしています。マスクを着けておしゃべりや物作りを楽しみませんか？

日時：3/16（木） 10時～11時

～まとめと次年度のお話～

2月も感染症に気をつけながら、楽しく支援活動を充実させることができました。来年度もよろしくお祈りします。

♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。

※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九大短大部教員による食育相談を行っています。

事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

♪さんこう・ぽぽら開放の時間帯について♪

【開園日】月～金（祝祭日・お盆・年末年始を除く）

【時間】9：00～12：30

12：30～13：30（昼休みの為閉園）

13：30～16：00

・園行事の為、ご利用できない場合があります。

・出前支援の場合は、担当職員が不在になります。

・ご利用の場合は、必ず電話での申し込みをお願いいたします。

3月の「子育て支援事業」のお知らせ

- ・3月6日（月）…フリーデー
- ・3月7日（火）…フリーデー
- ・3月13日（月）…フリーデー
- ・3月14日（火）…ミックス①（ひょうたん島公園に行こう）
- ・3月15日（水）…ミックス②（ひょうたん島公園に行こう）

※時間：10時～11時

※開催場所：子育て支援センター・運動場・他施設（公園等）

※事前の電話での申し込みが必要です。

3月分の申し込みは、3/1～ 9時半～17時です。

★感染症等の状況により、計画を変更する場合があります。出かける前に必ずホームページや公式LINEを確認してください。感染症対策にもご協力ください。

「発達障がいのある人の感覚特性について考えてみましょう」

子ども学部 子ども学科 准教授 横田 聡

幼少期からの脳のネットワークの不具合がひとつの要因として起こり、生涯にわたり影響を及ぼすライフスパン・ディス・オーダーとしてとらえられているのが「発達障がい」です。その中で、近年、様々な方向から研究され、多くの報告がなされてきた中にASD (Autism Spectrum Disorders: 自閉スペクトラム症) があります。これまでその中核と考えられる症状として、社会性や対人コミュニケーションの問題を取り扱ったものが中心でした。ところが近年、その症状の中で以前から指摘されていた知覚・感覚過敏特性が再認されてきました。また、感覚過敏をもつ当事者の生活上の困難や苦しみが著書等により語られるようになってきました。さらに、思春期以降の発達障がいのある方のパニック等の行動は就学期における周囲の「知覚・感覚特性」の理解のなさ、不適切なかわりによるトラウマによるとも言われてきています。

そこで、今回、ASDのある方の「知覚・感覚過敏」の問題について、一人でも多くの方の理解が進むことにより、当事者の方の生活の中での生きにくさが軽減されていくことになればと思い整理してみました。

① DSM-5 という診断基準に「感覚過敏」「感覚鈍麻」が加わりました。

限局された興味と反復行動という項目に「感覚刺激に対する過敏さまたは鈍感さ、または環境への感覚的側面に対する並外れた興味」というのが加えられました。

② ASDのある方どの程度が感覚の問題をもっているのか。

2017年のアメリカの10～14歳のASDの子ども116名を対象として感覚プロフィール検査を実施した結果によると、約92%が感覚過敏・鈍麻等の感覚の問題を抱えているということがわかりました。このことは、その程度、頻度、内容等を問わず、科学的理解、対策、周囲の適切な対応が求められていると言えます。

③ この感覚特性とはどのような概念と考えることができるのか。

感覚過敏や鈍麻という言葉はある特定の生理的状态を指すより、刺激に対する神経の反応から刺激を回避する行動を含むとても広範囲な概念と考えられます。さらに言えば、この感覚という言葉は「知覚」「認知」「情動」を含んだ言葉であり、この3つが主要な要素であると私は考えています。知覚は無意識下で自動的に行われるものであり、認知は意識的、ある程度能動的に行われるものであると考えます。さらに情動とは、外界の刺激に対して何らかの意味付けをし、好意や恐怖や不安をもったりすることと考えます。

④ 感覚特性は記憶のあり様にも影響を与える。

記憶には「印象記憶」「短期記憶(学習記憶)」「長期記憶」というものがあります。通常、印象記憶はその瞬間の感じた記憶なのですぐに消失します。ですが知覚・感覚過敏のある方は、この印象記憶も、短期記憶、長期記憶と同等レベルで残ることになります。このことは日常のありふれた刺激が、過大な負荷となるとも言えます。この積み重ねが思春期以降のフラッシュバック等の行動の困難さ、それによる生きにくさに繋がります。